

科目名		幼児と健康				担当者名	白金 俊二	
		幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング		25E23A01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容		「健康」とは何かを大きな主題として、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などについての知識を身に付ける。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の身体的な諸機能の発達や健康課題等について説明できる ・ 幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解できる ・ 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる 						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	健康の定義と意義及び乳幼児期の運動発達などの健康課題について						
	2	乳幼児の体の発達のな特徴と乳幼児の生活習慣の形成と意義について						
	3	幼児にとっての危険な場所や遊び方について						
	4	幼児期の怪我の特徴と病気の予防について						
	5	幼児の安全教育及び健康管理と安全管理について						
	6	乳幼児期の運動発達の特徴及び多様な動きの獲得と意義について						
	7	日常生活における幼児の動きと身体活動のあり方について						
8	身近な環境や遊具などを活用した多様な動きについて							
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		課題レポート		課題の主旨を理解した内容とまとめ方			40%	
		成果物提出、発表		授業内の成果物の提出状況や発表内容			30%	
		小テスト		授業内での小テストの正答率			30%	
教科書		保育内容健康（光生館）						
参考図書		幼児期運動指針（文部科学省）「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
準備学習		予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく						
課題等に対するフィードバック方法		添削をし返却をする						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する						
その他 留意事項								
実務経験と資格等		長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名		幼児と人間関係				担当者名	高田 俊輔
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		25E23A02	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		幼児を取り巻く人間関係の現代の特徴とその社会的背景及び現代的課題について解説したうえで、乳児期に育つ人と関わる力の発達や幼児期に育つ人と関わる力の発達について学習する。					
到達目標		自立心や協調性の育ち及び道徳性や規範意識の芽生えと発達について理解できる。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児を取り巻く人間関係の現代の特徴について					
	2	乳児期に育つ人と関わる力の発達について					
	3	幼児期に育つ人と関わる力の発達について					
	4	自立心の育ちと発達について					
	5	協同性の育ちと発達について					
	6	道徳性や規範意識の芽生えと発達について					
	7	家族や地域のかかわりと育ちについて					
	8	実際の保育場面における人間関係の発達について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		最終レポート課題		授業全体の内容を理解し、保育・幼児教育への考察を深められていたかを確認する。		60%	
		ミニレポート課題		各授業テーマを理解し、適切にまとめられていたかを確認する。		40%	
教科書		教科書は特に指定しないが、授業内で適宜参考文献を紹介する。					
参考図書		『幼稚園教育要領』（平成29年3月文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月厚生労働省） 『新・保育実践を支える 人間関係』成田朋子編 福村出版					
準備学習		適宜、『幼稚園教育要領』および『保育所保育指針』を参照することが望ましい。					
課題等に対するフィードバック方法		授業の冒頭において、いくつかのミニレポートを匿名で紹介する予定である。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		教員免許状更新講習研修講師（令和3年11月）					

科目名		幼児と環境				担当者名	副島 里美
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		25E23A03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践を5領域を通して総合的に考える ・乳幼児の発達を生活や遊びの中で具体的に捉える ・乳幼児の指導計画と評価を実際の姿から考える 					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・領域の考え方や内容について理解する ・保育の様々な場面を5領域という総合的な視点から考察する ・「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容との関連を理解する 					
授業計画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領と保育所保育指針及び保育内容の歴史の変遷について					
	2	各領域のねらいと内容及び指導上の留意点と評価の考え方について					
	3	領域ごとの内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりについて					
	4	幼児の発達に即した保育の構想と情報機器や教材の活用法について					
	5	幼児の発達や実態に即した具体的な保育の過程と指導案の作成について					
	6	保育を改善する視点と各領域の特性に応じた保育実践の動向について					
	7	養護及び教育の一体的な展開する保育と多文化共生の保育について					
	8	長時間の保育及び特別な配慮を要する子どもの保育について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業の振り返り		小テスト		40%	
		提出物				20%	
		授業態度				10%	
		最終テストあるいはレポート				30%	
教科書		コンパクト版保育内容シリーズ『環境』谷田貝公昭監修 一藝社 『学びを支える保育環境づくり』高山静子著 小学館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）					
参考図書		適宜指示する					
準備学習		適宜指示する					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1時間～2時間程度を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	幼児と言葉					担当者名	八木 雄一郎
	幼2種 (必修)						
ナンバリング	25E23A04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	人間にとっての言葉の意義や機能と乳幼児の言葉の発達過程について解説したうえで、言葉に対する感覚を豊かにする実践について学習する。						
到達目標	幼児の発達における児童文化財の意義及び児童文化財の知識と活用について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「言葉」の位置づけについて					
	2	言葉の意義と機能について					
	3	乳幼児の言葉の発達過程について					
	4	言葉の楽しさと美しさについて					
	5	言葉の感覚を豊かにする実践について					
	6	幼児の発達における児童文化財の意義と種類について					
	7	児童文化財の活用について絵本、物語					
	8	児童文化財の活用について紙芝居、人形劇					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	小テスト	授業の振り返り				50%	
	課題レポート	課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。				30%	
	提出物	課題の趣旨を理解し、求められたものを提出できるか				20%	
						%	
教科書	特になし						
参考図書	授業中に指示する。						
準備学習	授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。						
課題等に対するフィードバック方法	提出された作文やレポートについては資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授(「子どもと言葉」担当)						

科目名		幼児と表現（音楽表現）				担当者名	浅倉 恵子
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		25E23A05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
		1年・③					
授業内容		手遊びを導入として展開する幼児の音楽表現活動の援助法を、実践的に学ぶ。					
到達目標		手遊びを導入とする幼児の音楽表現活動の援助法を身につける。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「音楽表現」の位置づけについて					
	2	幼児の音楽表現を生成する過程について					
	3	音楽表現の知識と技能について（1）ピアノの伴奏方法					
	4	音楽表現の知識と技能について（2）弾き歌いの技能					
	5	音楽表現の知識と技能について（3）手遊びと指導方法					
	6	音楽表現の知識と技能について（4）子どもが歌うための援助方法					
	7	音楽表現の知識と技能について（5）幼児歌曲（童謡と遊び歌）					
	8	音楽表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		平常点評価	授業への取り組み姿勢、模擬保育の準備を評価する			60%	
		試験	実技課題の達成度を評価する			40%	
教科書		『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例ー』浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年					
参考図書							
準備学習		模擬保育を担当するときは、準備物を工夫し、準備・練習する					
課題等に対するフィードバック方法		実技練習についてはその都度講評、解説を行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習およびピアノの練習に1～4時間を奨励する。					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	幼児と表現（造形表現）					担当者名	水野 道子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25E23A06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	①造形技法、道具、素材を知り実際に使いこなすことができるようにする。②園生活の年間行事や子どもの発達に応じた保育計画案の作成により実践の基礎力を身につける。						
到達目標	①造形技法、道具、素材を使って、教材の工夫や用具を使いこなせるようになる。②造形表現活動の保育指導計画を立てることができるようになる。						
授業計画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「造形表現」の位置づけについて					
	2	幼児の造形表現を生成する過程について					
	3	造形表現の知識と技能について（1）画材の知識					
	4	造形表現の知識と技能について（2）色彩の知識					
	5	造形表現の知識と技能について（3）造形の技法					
	6	造形表現の知識と技能について（4）造形のための援助方法					
	7	造形表現の知識と技能について（5）制作の技法					
	8	造形表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				20%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	課題提出	製作課題の主旨を理解し、工夫し提出できたか				50%	
教科書	「保育をひらく造形表現」槇英子 萌文書林、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と資格等	小学校、中学校・高等学校（美術）教員免許を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	教育心理学					担当者名	三和 秀平
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25E23A07	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	心身の発達の過程と特徴及び発達概念と教育における発達理解の意義、様々な学習形態と概念や過程を解説したうえで、主体的な学習を支える動機づけや集団づくりと学習評価のあり方及び指導の基礎を学習する。						
到達目標	主体的な学習活動を支える指導と考え方について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	心身の発達の過程と特徴について					
	3	心身の発達に対する外的及び内的要因について					
	4	外的要因と内的要因の相互作用について					
	5	発達の概念と教育における発達理解の意義について					
	6	乳幼児期から青年期における運動発達について					
	7	乳幼児期から青年期における認知発達について					
	8	乳幼児期から青年期における社会性の発達について					
	9	発達を踏まえた学習を支える指導について					
	10	様々な学習形態と概念及び過程について					
	11	主体的な学習活動を支える動機づけについて					
	12	主体的な学習活動を支える集団づくりについて					
	13	主体的な学習活動を支える学習評価のあり方について					
	14	主体的な学習活動を支える指導と考え方について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	参加態度、課題	授業への参加意欲，取り組みの姿勢を評価する。				30%	
	レポート	課題の主旨を理解し，適切にまとめられ提出されているかを評価する。				70%	
教科書	教育心理学（やさしく学ぶ教職課程），児玉 佳一（編集），学文社						
参考図書	随時紹介する。						
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき，あらかじめ教科書に目を通し，予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	次回の授業でフィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	原則として紙の資料の配布は行わず，オンライン上で資料を配布する。オンラインで作業することもあるため，パソコンを持参することが望ましい。						
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授，博士(心理学)						

科目名		保育の心理学				担当者名	中野 明子
		保育士（必修）					
ナンバリング		25E23A08	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期
授業内容		身体発達、認知、言語、情動、社会性等の発達過程やその基盤にある発達のしくみや理論、発達の遅れや偏りに関する基本的な知識を得るとともに、子どもの発達をうながす人との関係や保育環境について学ぶ。					
到達目標		保育実践に関わる発達理論等の基礎的な知識を習得する。 発達を捉える視点を獲得し、子どもの学びを支える保育実践について理解を深める。 乳幼児期の子どもの学びが人との関係を基盤として環境を通して行われることを理解する。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子どもの発達を理解する意義について					
	3	子どもの発達の特徴と環境について					
	4	発達理解の現代的な視点について					
	5	発達支援の総合的な視点について					
	6	乳幼児期の社会情動的発達について					
	7	身体的機能と運動機能の発達について					
	8	認知の発達過程について					
	9	言語の発達傾向について					
	10	発達に遅れや偏りがある子どもの理解と支援について					
	11	発達段階ごとの特徴と課題について					
	12	乳幼児期の学びに関する理論について					
	13	乳幼児期の学びの過程と特性について					
	14	乳幼児期の学びを支える保育実践について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業への積極的な取り組み		授業への積極的な取り組み		30%	
		課題		授業の中での課題		20%	
		筆記試験		問題の正答率		50%	
教科書		無藤隆・掘越紀香・丹羽さかの・古賀松香 編著 保育の心理学：子どもの育ち・学びを知る（乳幼児教育・保育シリーズ） 光生館					
参考図書		授業中に紹介する					
準備学習		事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと					
課題等に対するフィードバック方法		授業中に解説を行うとともに、提出された課題の返却時にはフィードバックを行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	特別支援教育・保育論 I					担当者名	副島 里美
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25E23A09	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における「特別な支援を必要とする子ども」について学ぶ ・特別な支援の子どもの実態について、様々な事例を考える ・特別な支援の方法について学ぶ ・特別な支援を必要とする保護者へのかかわりについて学ぶ ・特別な支援と他機関との連携について学ぶ 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する子どもの教育体制を理解する ・特別な支援を要する子どもの支援の方法を理解する ・特別な支援を要する子どもの家族に対する支援方法を理解し、連携機関につなげることができる 						
授業計画	回	内 容					
	1	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み及び歴史について					
	2	特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と学習の過程について					
	3	様々な障害のある幼児の教育上及び生活上の困難について					
	4	特別の支援を必要とする幼児に対する支援の方法について					
	5	通級指導及び自立支援の教育課程上の位置づけと内容について					
	6	個別の指導計画及び教育支援計画の作成の意義と方法について					
	7	専門職や関係機関及び家族との連携による支援体制の構築について					
	8	特別の教育ニーズのある幼児の学習上又は生活上の困難と対応について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業の振り返り	授業の振り返り			40%	
		授業態度	授業への積極的参加、予習復習（反転授業）の励行			10%	
		提出物				20%	
		最終課題	（テストあるいはレポート）			30%	
教科書	柴崎正行ほか『障がい児保育の基礎』（わかば社）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育・教育課程論					担当者名	杉浦 英樹
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25E23A10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・②
授業内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学び、保育のねらいや内容についての知識を習得する。保育における指導計画の意義について理解し、PDCAサイクルを行うことで保育の質を高めることを学ぶ。立案の具体的な方法について学び、実際に立案してみる。						
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての知識を得る。長期指導計画と短期指導計画の関係が理解でき、計画を立てることで保育の質が向上することを理解する。実際に長期指導計画、短期指導計画の立案ができるようになる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	幼稚園教育要領の性格と位置づけ及び改訂の変遷と内容について					
	3	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の内容について					
	4	教育課程編成の目的と役割及び機能と編成の方法について					
	5	保育における計画と評価の意義及び保育の過程について					
	6	保育の目標と計画の考え方について					
	7	全体的な計画と指導計画の関係性について					
	8	全体的な計画の作成について					
	9	指導計画（長期的・短期的）の作成について					
	10	指導計画作成上の留意事項について					
	11	保育の記録と省察及び自己評価について					
	12	保育の質向上に向けた改善の取組（PDCAの方法）について					
	13	カリキュラム・マネジメントの意義と重要性について					
	14	カリキュラム評価の考え方について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	授業態度		授業への積極的な取り組み			40%	
	課題		授業中の課題（提出状況および内容）			30%	
	期末課題		レポート課題（課題の主旨を理解し、まとめられているか）			30%	
教科書	河邊 貴子著 新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論 東京書籍						
参考図書	杉浦英樹 編著 遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム：未来の幼児教育・保育のために 学文社						
準備学習	事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中に解説を行うとともに、提出された課題に対するフィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	準備学習として指定された保育施設での見学実習を重視する						
実務経験と資格等							

科目名	幼児理解					担当者名	上原 貴夫
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25E23A11	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児理解の意義と発達や学びを捉える原理について解説し、幼児理解のための観察や記録の意義や目的に応じた観察法、幼児の生活や遊びの実態に即して、対応方法について学習する。						
到達目標	幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずきと、その要因を把握するための原理や対応の方法について理解できる。						
授業計画	回	内 容					
	1	幼児理解の意義と発達や学びの捉え方について					
	2	幼児理解を深める保育者の基本的姿勢について					
	3	幼児理解の方法（1）観察と記録の意義と目的					
	4	幼児理解の方法（2）目的に応じた観察法					
	5	幼児理解の方法（3）省察と評価の意義と目的					
	6	幼児理解の方法（4）個と集団の関係を捉える意義と方法					
	7	幼児理解の方法（5）幼児の葛藤やつまずきの理解					
	8	幼児理解の方法（6）保護者の心情と対応の方法					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	課題提出	課題について主旨を的確に理解し、適切な方法で表現できて提出できていること。				20%	
	レポート	課題について調べて適切にまとめられて提出できていること。				20%	
	試験	課題の正答率				60%	
						%	
教科書	教科書「子ども理解と観察」（大久保・梶田編著 ななみ書房）を使用。他に授業中に適宜資料を配付する。						
参考図書	平成29告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
準備学習	新聞記事や書籍などを活用して幼児についての興味や関心を高める。						
課題等に対するフィードバック方法	講義の中で取り上げていく。						
準備学習（予習・復習等）に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	学習や研究、活動に主体的に取り組むこと。						
実務経験と資格等	博士(教育学)。長野県短期大学名誉教授。第一種幼稚園教諭、保育士、第一種小学校教諭、学校心理士、上級教育カウンセラー						

科目名	社会的養護 I					担当者名	比田井 友香
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25E23A12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について概説したうえで、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の原則及び社会的養護における保育士等の倫理と責務について解説する。そのうえで、社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、社会的養護に関する社会的状況や課題について学習する。						
到達目標	社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、その社会的状況や課題について理解できる。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	社会的養護の理念と概念及び歴史の変遷について					
	3	子どもの人権擁護と社会的養護について					
	4	社会的養護の基本原則について					
	5	社会的養護における保育士等の倫理と責務について					
	6	社会的養護の制度と法体系について					
	7	社会的養護の仕組みと実施体系について					
	8	社会的養護の対象について					
	9	家庭養護と施設養護について					
	10	社会的養護に関わる専門職について					
	11	社会的養護に関する社会的状況について					
	12	施設等の運営管理について					
	13	被措置児童等の虐待防止について					
	14	社会的養護と地域福祉について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%	
		中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%	
		試験	問題の正答率			40%	
教科書	『子どもの未来を支える社会的養護』 (2019年11月) ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名		乳児保育 I				担当者名	橋本 佳美
		保育士 (必修)					
ナンバリング		25E23A13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期
授業内容		乳児保育の意義と目的や歴史的変遷及び乳児保育の役割と機能について概説するとともに、保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について考察する。そのうえで、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育の内容と援助や配慮及び運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学習する。					
到達目標		乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について理解する。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	乳児保育の意義と目的及び歴史的変遷について					
	3	乳児保育の役割と機能について					
	4	乳児保育における養護及び教育について					
	5	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる現状と課題について					
	6	保育所及び保育所以外の児童福祉施設における乳児保育について					
	7	家庭的保育等における乳児保育について					
	8	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について					
	9	3歳未満児の生活や遊びと環境について					
	10	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について					
	11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりについて					
	12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について					
	13	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について					
	14	乳児保育における連携と協働について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		課題提出	課題が自分の言葉で考察されて記述できている			30%	
		試験	問題の正答率			60%	
		授業参加態度	発言したり提案したりできていたか			10%	
教科書		菊池篤子編(2022). ワークで学ぶ乳児保育 I・II. みらい					
参考図書		①三池輝久他 赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻 睡眠・食事・生活の基本 ②林万里(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ビデオ教材：①赤ちゃんの1年(0-6か月)、赤ちゃんの1年(7か月以降) ②サクランボ坊や 1から5 ③発達診断の実際 乳児期から幼児期. 大槻書店(全6巻)					

準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他 留意事項	
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり